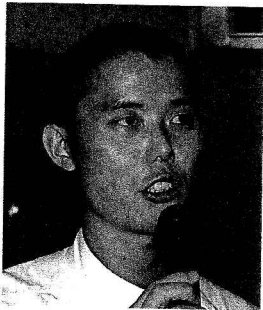


平成23年度

第2回 釜石医師会・県立釜石病院 合同症例検討会

日時：平成23年11月24日(木) 午後6時30分～

場所：県立釜石病院「大会議室」



【演題1】

当院で経験したレジオネラ肺炎の2例

総合診療科／米田 哲・佐藤俊郎

【講演要旨】

2011年9月から10月にかけての2ヶ月間の間に、レジオネラ肺炎を2例経験した。

【症例1】 59歳男性、基礎疾患に糖尿病。現在は仮設住宅に入居しているが、もともとは平田に住んでおり、平田でがれき撤去の仕事をしていた。9月某日より体調不良を訴え、翌日には空咳と悪寒を認め、その翌日にかかりつけ医を受診。胸部レントゲン写真で肺炎と診断。セフェム系抗生剤で改善せず当院に紹介。受診時の所見でdry coughと筋肉痛、比較的徐脈を認めた。尿検査でレジオネラ感染症と診断。キノロン系抗生剤の静注で治療を開始し問題なく退院した。

【症例2】 77歳女性、唐丹に居住。基礎疾患に糖尿病。自宅は津波の被害を免れたが、大潮になると水道が汚濁し、下水も排水されなかった。9月末より倦怠感が出現し、10月初めにかかりつけ医を受診。呼吸器症状はなかったが胸部レントゲン写真で肺炎と診断され当院に紹介。尿検査でレジオネラ感染症と診断した。キノロン系抗生剤の静注で治療を開始し問題なく退院した。

【考察】 呼吸器症状が乏しい肺炎の場合、レジオネラ肺炎を鑑別に挙げて診察を行う必要がある。治療にはキノロン系抗生剤が有効である。